

「世々に先立って父から生まれ」

(コロサイ1・15〜17)

一、イエスを何ものとするか

皆さまにとつて、イエスさまはどんなお方でしょうか。きょう、初めて教会に来られた方で、キリスト教になじみのない方は「世界三大聖人のひとり」と思われるかもしれません。あるいは、クリスチャンではないけれども、キリスト教について多少とも知識を持っている方なら、「キリスト教会が、神、救い主と信じている方」と答えられるかも知れません。

イエスを何ものとするか。これは、非常に重要なことです。なぜなら、教会が「信仰」という言葉を使う場合に、イエスさまが何ものであると信じる内容によつて、キリスト信仰になるか、あるいは、似てはいてもキリスト信仰でなくなってしまうからです。

二、コロサイ書に聴く

コロサイ人への手紙1章15節をご覧ください。《御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。》とあります。この聖句より教えられることは、《御子》と「父である神」は「ひとりの神」でありながら、その中に「父である神」とは区

別される、《神のかたち》なる《御子》がおられることです。ちなみに、《かたち》は「エイコン」で、「イコン(聖像)」の元になった言葉です。

ところで、《御子》という言葉聞き、さらに《生まれた方》という言葉聞き、ますます、多くの方が「では、御子はいつ生まれたのか？」という疑問を抱きます。特に、1世紀、2世紀、3世紀、4世紀の信仰者の中に、そのような疑問を持った方がいました。1世紀と申しましたのは、コロサイ人への手紙が執筆されたのが1世紀だったからです。そのことについて、コロサイ書は語っています。《御子は、(略)造られたすべてのものより先に生まれた方です。》と。

では、《造られたすべてのものより先に》とは、何を意味するのでしょうか。16節につながっています。それは《万物》、すなわちすべてのものです。では、《万物》とは何なのでしょう。16節に述べられています。《なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も權威も、すべて御子によつて造られたのです。》と。これは、当時の世界観で語られていますので、今日的な言葉で表現するならば、「時間も、空間も、物質も、命も」になります。それらは、ただひとりの神が造られました。それらの先に、御子が生まれられました。言い方を変

えるなら、御子は万物よりも先に存在していました。そのことが、17節で語られています。《御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています。》と。

と、このように語られても、納得できない信仰者が、1世紀、2世紀、3世紀、4世紀に存在していました。そこで、ニカイア信条の前身なる原ニカイア信条は語っています。これは4世紀の初め、325年に発布されました。《御子が存在しなかつた時があつたとか、御子は生まれる前には存在しなかつたとか、存在しないものから造られたとか(略)主張する者を、公同かつ使徒的な教会は呪うものである。》と(関川泰寛著『ニカイア信条講解 キリスト教の精髓』教文館)。

要は、御子イエス・キリストは初めから神であられ、「万物が存在する前に造られたものではない」という、信仰告白です。神は初めからおられ、初めから父・子・聖霊なるお方であられること。これが教会の信仰告白です。

三、世々に先立って父から生まれ

それでは、きょう取り上げるニカイア信条の文言を見てまいります。《世々に先立って父から生まれ》とあります。《世々に先立って》とは、ふつうは使われない日本語かと思えます。それゆえに、この言葉を見ても、読んでも、聞いても、たましいに届きにくい言葉では

ないかと、私には思えます。《世々に先立って》とは、直訳は「すべての時代(世代)の前に」です。こういう意味かと思えます。「神が世界をはじめられてから幾世代もの時代が続いている。それらのすべての時代に先立って、御子が御父より生まれられた」という文章です。コロサイ書の《御子は(略)すべてのものより先に生まれた》より、ニカイア信条の「すべての時代(世代)の前に父から生まれ」のほうが、まちがって受け取られないようにするための思いが働いているように、私には見えます。こんなことを語ってしまえば、ニカイア信条がコロサイ書を超えているように思われる方がいるかも知れませんが、実のところは、コロサイ書が語るうとしたことを、ニカイア信条は、よりはつきり言い表していると言えます。

教会の信仰の基礎は1世紀に、イエス・キリストという土台によつて据えられました。ですが、イエス・キリストが父と呼ばれた「神」、神でありながら人となられた「御子」、「聖霊なる神」という三位一体の神信仰が確立されるまでに、たいへんな労苦があつたと知ります。私たちは、教会が築いた信仰を受け継いで、時代と文化を超えて保っている者です。

父・子・聖霊なる神。これが地上にいる私たちに示された神の御姿です。